世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農業機械テストの権威、
ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農業機械情報。

集団プラウニングの世界記録達成
From Australia



オーストラリアの牧草地に結集した1900台以上のトラクタが一斉に作業を始めた。

安全第一、新型荷降ろしシステム
From Australia

この「タファーティッパー」は、故人となったジェフ・モーウッド氏が開発した。氏の会社、ヘミマニュファクチュアリング社は現在、未亡人のエヴェリンさんが経営している。



写真右が開発者エヴェリン・モーウッド氏

3Super pruner shapes up

スーパー剪定機が果樹園で大活躍
From Australia

この機械は一見、インディ・ジョーンズ風の映画で地下室に侵入する敵の集団を丸ごとやっつける恐ろしい武器に見えるかもしれない。だが意外なことに、平和で静かなモモの果樹園で重宝される剪定機だ。

このアフロン社製の新型4枚刃油圧剪定機は、空圧式剪定バサミなら何千回も作業が必要なところを一気に剪定してしまい、来シーズンの収穫がやりやすくなるようにネクタリンやモモの木を、逆クリスマスツリー型に樹形を整える。

ジョー・ウィンクラー氏はクィーンランド州のアトキンソンダム近くにあるクーミンヤで、ネクタリンとモモの木が8000本ある果樹園を家族で経営している。彼は2週間前にこの新型剪定機を、ミルドゥ市にあるアフロン社からおよそ15,000ドル（約168万円※）で購入したばかり。この機械はトラクタのフォークリフトに装着して、樹列に沿って枝を整然と刈り取っていき、木の高さを揃えることもできる。



アフロン社製の新型剪定機を使用する果樹農家ジョー・ウィンクラー氏。

ウィンクラー氏の話によると、同じ列内の樹間の枝は依然として空圧式剪定バサミで刈る必要があるが、手間がかかって誰もやりたがらない側面部分の剪定作業を完全に自動化できたとのこと。

剪定は毎年必須の作業。これをやらないと収穫時、収穫請負業者（多くはバックパッカー集団からなる）が枝にひっかけて、大切な収穫物を傷つけてしまう。

ウィンクラー氏は今ではネクタリンとモモを専門にしているが、10年前まで、肥沃な灌漑農地40haでトマトや様々な品種の野菜を栽培していた。

※米ドルでの換算

China fancies its chances with the Foton

新登場の中国製トラクタ
From South Africa

南アフリカの生産者は、著しく利益が減少している。そのため、投資額や経費を減らせるならどんなものでも歓迎だ。この度、中国の山東福田重工公司製の中国トラクタが南アフリカに輸入されることになり、農家はより安いトラクタを購入できるようになった。

山東福田重工公司は中国に巨大な市場を持つメーカーのひとつで、工場では1日当たり150台のトラクタを生産できる。同公司の生産ラインを6週間ほど動かせば、南アフリカにおける1年分（総販売数）のトラクタを製造できる計算だ。近隣諸国の市場でこのトラクタの実力はすでに証明済みなので、信頼性は高い。

クワズルナタール州で最近開かれた実演展示会で、南アフリカの農家グループに初めて披露された。



オーストラリアにおける中国製「福田ヨーロッパ」への関心は高い

©profi7,9/2004,7/2005 Munster Germany　www.profi.com

Three-wheeler takes to tracks

3輪からクローラ仕様へ
From Netherlands

ヴァーヴィー社からこの度、3輪トラックの「トライク」が発売された。3輪と言っても、後輪はホイールではなくクローラ仕様になっている。

クローラのゴムベルトの接地面は2×90×210cmで、総接地面積は37,800㎠となる。14.5tの機体重量に最大積載重量の20tが加わった場合でも、地面にかかる圧力は、1㎠あたりわずか1kg以下。オランダの農作業請負業者にとってはいいニュースで、ホイールなら徐々に動けなくなるぬかるんだ圃場でも作業が続けられる。ドロドロの圃場では断然有利だ。



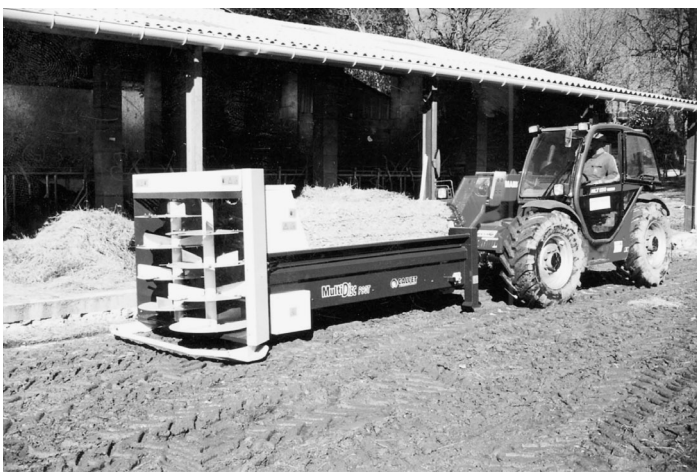
ヴァーヴィー社の3輪トラック「トライク」は、後輪がクローラ仕様

Bale blaster

敷きわら作りの解決策
From France

家畜農家は敷きワラを作るのにいつも苦労しており、効率的な方法がないか、農機メーカーともども長年の課題だった。

フランスのカルベ社が最近考案し販売を始めた機械は興味深い。このマルチディスクブロアは、刃のあるディスク6枚で麦ワラを粉砕し、家畜小屋でもどこでも必要な場所まで吹き飛ばす。ベールは大型のものでも長方形でも対応でき、ベルトコンベヤで粉砕ディスクまで運ばれる。ベルトは油圧で駆動し、敷きワラを7m飛ばすには、トラクタ側に50ℓ/分の油圧吐出量が必要だ。機体の仕様は、けん引式・装着式・テレハンドラ式の各タイプがある。



カルベ社製のブロアが麦ワラを粉砕する。このモデルはマニトウ社のテレハンドラに前装させている。

Ploughing into the record books



1901台のトラクタを1カ所の牧草地に集めることができたら……。

オーストラリアのトラクタ狂たちは、この世界記録に挑み、見事それを達成した。

彼らは苦労してトラクタや作業機を集め、アイルランドで以前に作られた1833台の世界記録を破ったのだ。オーストラリアでのこの壮大なプラウニング・ショーは、ニューサウスウェールズ州のクータムンドラで行われた。

取りまとめ役のブライアン・セインズベリー氏はこの成果を見て「天にも昇る思いがした」と話す。参加車両の中には、南アフリカから遠征した3台のトラクタも含まれていた。

Tufer Tipper doubles the benefit

クィーンズランド州で、独創的な積荷の荷降ろしシステム「タファーティッパー」が開発された。これで、シングルトレーラが12m以上にもなる穀物輸送用容器型コンテナを地面から8m以上持ち上げる際の転倒事故を防止することができ、こうした危険も過去のものにできる。

このシステムは、トレーラ上の2つのコンテナの各端を持ち上げ、コンテナ間の中央シュートを使って積荷の穀物を排出させる。機械がコンテナをある程度まで傾けると、コンテナの端にある口から穀物がホッパに流れ出す仕組み。ホッパからはオーガかエレベータで貯蔵庫へ穀物を運ぶ。

荷降ろしが完了した後、ドライバーがすることは、荷降ろしシュートを畳んで格納し、それぞれのコンテナの排出口を閉めるだけ。これでトレーラは次の積荷を取りに出発できる。